

日本PTA研究大会に参加して

8月23日～24日にかけて神奈川県川崎市にて日本PTA研究大会がありました。参加させていただき、とても学ぶことがあったので、簡単ですが、みなさんにお伝え出来たらなと思いました。感想も交えながらお伝えいたします。

ウェルビーイングの実現に向けた講演やセッションを通して、子どもたちの関わり方、保護者の役割を再認識する機会をPTAよりいただいたことを感謝します。

「常識」「ふつう」から解放されたればこんなにもホッとできる、子どもが愛おしくなる！

- ・学校に行かない理由は子ども自身もわからない。
- ・「明日は行く」という気持ちにウソはない。
- ・大人の良かれが子どものメイワクになる？
- ・「やってみたい」が奪われている。



西野 博之 氏（認定NPO法人フリースペースたまりば理事長）

1991年、川崎市高津区に「フリースペースたまりば」を開設。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、様々な障がいのある人たちとともに地域で育ちあう場を続けている。



全体基調講演

誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて

子どもたちが行う行動について、全てに意味があるということを知りました。

親は、知らずに子どもの「やってみたい」を奪い、親の良かれと思っていることを押し付けて、親自身が育てやすいようにしていることを気づかされました。

私自身、子どもの「やりたい」と言ったことに対して、他のものを進めてしまっていました。そのほうが私が楽になるからだと思います。今回の講演を受けて、子どもともう一度、向き合いたいと思います。

PTAでは、左図にある著書を数冊購入します。興味がある方はPTA事務まで連絡ください。

研究課題

大人変われば子供も変わる！

沖縄にもあるトーキョーコーヒー。私自身、存在を知らなかったですが、とてもいい活動をしているなと思いましたので紹介します。

「学校だけが全てじゃない」

実際、子どもが学校に行きたくないと言ったとき、そのような状況に置かれたとき、親としてどのような声をかけるべきでしょうか。学校への不満、友達への不満、親への不満、何が原因かわからず困っている人も多くなっているかと思えます。ひとりで悩まず、同じような悩みを持った親同士が集まり会話する環境を与えてくれます。機会があれば、インスタ等検索してください。



吉田 タクシ 氏（「トーキョーコーヒー」代表）

兵庫県出身、奈良県在住。学生時代にアトリエe.f.t.を創立。その傍ら、大学講師、バンド活動、デザイナー、放課後デイ、狩猟など活動は多岐。二児の父。

「トーキョーコーヒー」代表。登校拒否じゃないトーキョーコーヒー。大人が楽しく学びあう拠点は全国約250カ所。教育システムを進化させるムーブメントを主導。

トーキョーコーヒーとは

「トーキョーコーヒー」は、登校拒否のアナグラム（文字を入れ替えてつくる言葉遊び）。全国で学校に行かない事を選択する約30万人の子どもたちのアクションを受けて、「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考え、学ぶ。そして子育てや教育、ひいては本当に豊かな社会について大人が考え、対話を生む為のムーブメント。

編集後記

PTA会長 我喜屋 です。

今回、参加させてもらって、子どもたちとの関わり合い方をもう一度、見直そうと思いました。今回、紹介できませんでしたが、親野先生と言う方がおり、「褒めること」の重要性をお話してくれました。また、「叱ること」は絶対にしてはいけないと。早速、実践しようと思った矢先のことでした。大会が終わりお家に戻り、小学1年の息子の宿題状況を確認して・・・「はっし、何やっているば」と叱ってしまいました（焦）。実践はとても難しいですが少しずつ子どもとの会話を増やし、褒めるところを探したいと思います。

川崎大会公式サイト

カリキュラム詳細

